

紙粘土で立体に表す活動において、動きや形に視点を当てて表し方のよさについて学級全体で学び合ったことは、表現意欲を高め、発想や構想を深めたり広げたりすることに有効であったか。

1 題材名 春季トレーニング中！運動をしている自分の体の動きをねん土で表そう

2 授業の構想

(1) 次の文章は、自分が表したい人物の動きについて、構想を文章化したイメージ文と、それに基づいて骨組みのポーズをつけた場面を学習後にふりかえったときのものである。

[イメージ文] ぼく・わたしが表したい動きは、春トレのはじめごろは弱気だったけど、終わりごろには本気になっている様子です。その動きにこめたい気持ちは、最後で足がいたいけれど、だんだん速くして行って、今ある力を出し切って、一番でうれしい気持ちをこめました。(児童A)

イメージ文では、漠然としていた動きのイメージを明らかにすることで、自分が表そうとしていることに自分の感情が反映され、そのために必要な動きがとらえられている。

今日、図工で続きをしました。ぼくのイメージでは位置についてよーいの「よーい」の時、とても真剣になってドキドキしている時を表したいです。もう板にはるので、はやく完成するのが楽しみです。(児童B)

今日は形に目を見はって、「全力」の走りをイメージしました。最初はジョギング姿だったけど、全力に近づいてきたので、この次もがんばりたいです。(児童C)

切り取った瞬間の動きを骨組みのポーズに表すときも、その場面の様子が子どもの心情とともに言語化され、以降の紙粘土による立体表現への基盤となっている。

本学級の子どもたちは、自分が表したい人物の動きについて、春季トレーニングで体験したことを想起したり、友だちと動作化したりしながら、針金による骨組みや紙粘土といった素材と向き合い、友だちと互いの構想を伝え合う中で意欲的に見つけ出そうとしている。人物を紙粘土で立体的に表す学習活動は初めての体験である。試行錯誤を重ねながら自分の表現意図と向き合い、子どもの一人ひとりが自分らしい造形表現を追求しようとする姿に育てていきたい。そのためには、一人ひとりが自分の感性を働かせて考えをもち、その考えを基に学級全体で様々な表し方を比較しながら試行錯誤し、自分の造形表現を追求する過程を大切にしたい。

(2) 本題材では、春季トレーニングや陸上競技大会での運動体験を生かして、人物が運動しているときの躍動感や力強さを形に表す。また、その際に感じた心情や感情を明らかにして、躍動感や力強さと関連づけながら、人物塑像として表したいことを追求し、作品にしていくことを本題材のねらいとする。そこで、単元全体のねらいを学習過程の中ではっきりさせ、目的に沿って動作の特徴をとらえたり、言語化により表現意図を明らかにしたりすることも本題材のねらいとする。そして、この活動を通して、子どもたちが表したい心情や感情を意欲的に形に表そうとしたり、その構想に基づく人物の形の特徴を伝え合ったりする態度が生まれることを期待する。

その中で友だちとかかわり合い、多様な考え方や見方や表し方を共有することで、立体に表す活動や鑑賞についての感性などが高まり、造形表現における思考力・判断力・表現力が育成されるものと考えられる。そのために、子どもが自分や他者の学び方や表し方のよさを肯定的に認め合う姿や、表現しようとする事に向かって試行錯誤をくり返ししながら、発想や構想を見つめ直し、工夫を重ねて、より豊かな表し方にせまろうとする造形活動を進めたいと考え、本題材を構想した。また、人物の動作やその形に関わるイメージや、表そうとしていることの意図や、考えや理由を自分なりに表す言葉に着目する。自

分の表したいことや仲間が表そうとしていることを感じ取り、形を手かがりにして伝え合うようにかかわり合う。そして、学級全体で学び合うことが、本学級の児童の感性を高め、発想や構想に深まりや広がりを与え、造形活動を豊かに展開させるために必要な力をつけることにつながると考えられる。

(3) 以上のことを重視して展開した授業を通して、子どもたち一人ひとりの思考力・判断力・表現力を育て、高めていきたい。そのためには、学び合っている場面での子どもたちの発言やふりかえりの場面での記述を大切にすると共に、子どもたち一人ひとりの学びに関わるとらえをワークシートや観察から評価規準を基に行い、その変容をとらえていきたい。ワークシートを活用して、子どもたちが自分の造形表現の足跡や工夫改善していく過程を自らとらえ、評価し、次の活動に向けて発想や構想を発展的に更新すると共に、造形表現への意欲を高めることができるようにしたい。

以上のような本題材がもつ性質と、本学級の児童の実態をふまえた上で、単元を次のように展開する。

第1次では、針金と麻ひもから骨組みを作る活動を行う。骨組みを「棒人間」と称して様々な動きや形を楽しみながら味わう。人物の立体感や量感をつかむと共に運動している人物の動きのおもしろさに出会わせ、興味・関心を高めたいと考えた。そして、形作った棒人間のポーズやそれを図に描き起こしたものをもとに、友だちの感じたことやとらえ方と自分のそれについて伝え合う。主題に沿って表したいことをつかんだり、自分の表現のよさを認められる中で主題についての発想や構想を深めたり広げたりしていくことができると考えた。

第2次では、イメージ文を書くことで漠然ととらえていた人物の動きのイメージを明らかにする。このことから、できあがりの方向性をつかみ、自分の心情や感情に基づく造形表現の意図を明確にして、表したいことがらを骨組みの形により正確に反映させることができると考えた。第1次では「棒人間」であった骨組みが、躍動感や力強さが演出されるようにねん土の荒づけや肉づけが施されることによって、子どもたち一人ひとりが考えているテーマに向かってより人間としての存在感を増していく。そのために、学級全体で一つの動きについて検討し、よりよい表し方を提案したり、その学びで得た経験を生かして、自分の制作中の作品について工夫や改善をしたりする活動を大切にする。

第3次では、肉づけによってできてきた人物の概容に、顔や頭髪、衣服、手、必要に応じて小道具を作り、塑像の細部を立体表現していく。作品が進むにつれ子どもたちは必要感をもって細部の表現を求めようになると予想する。細部の表現は塑像自体により豊かな表情を与え、子どもたち一人ひとりの表現意図と結びついて、造形表現としての立体作品の質を高めることができる。そのためにはそれぞれの部位について全体の形とのバランスや、表現意図との関連を一つ一つ明らかにしていくことが大切である。必要に応じて参考作例やサンプルを示すことで、子どもたちが比較検討したり、意図にあった物を選び出したり、そこに新たな工夫を加えることができるようにしたい。また、学級全体で共通の論点や視点をもって各部位についてよりよい表し方についての考えを伝え合う場面を設定する。学級全体で学び合ったことが自分の取組みに還元され、発想や構想が確認されたり、更新されたりすることを期待する。

本時は第3次の3時間目である。子どもたちは前時までに各々のペースで作品を作り進めてきている。必ずしも全員が本時に手を作るとは限らないが、制作の手順について見通しを示し、各部位ごとの表し方について課題を示し段階的に展開してきている。まず、手の表し方を一番こだわりたいと考えている子どもの日記を紹介し、細部の表現の大切さや必要感を共有したい。その後に教師の作例を示し、作品そのものや教師の表現意図に最も適した手の形は何かを論点として、考えを伝え合う活動を行う。サンプルとして用意した複数の手の形を見て検討したり、新たな工夫を提案したりする子どもの姿を期待したい。そのような意見に根拠をもって伝え、学び合うことを大切にするすることで、自分の作品に対しても作るための視点が明確になる。その視点に基づいてこだわりたいことや大切にしたいことを、友だちとかわり合いながら自分自身で判断して、よりよい表し方を追求する活動にする。

ふりかえりの場では、活動の前後でイメージがどのように変化したかなど、ワークシート（ポートフォリオ評価）を用いて文章化し、自分の考えを確認したり新たな構想をつかんだりすることで、「もっとよくしたい。」「今度はこんな工夫をしたい。」という意欲を喚起していく。

小單元ごとに作品の画像をポートフォリオに集積していき、自分の制作過程をふりかえることで、子どもたちが自分自身の学びの過程を見つめることができるようにする。自分の表現意図を学びの節目ごとに明らかにし、制作の方向性をとらえることができるように価値づける。ふりかえりの活動を展開する中で、子どもたちが表したいことや表し方についてのこだわりを大切に保つように心がける。児童のアイデアや構想は常に更新され続けていくものだと考える。

第4次では絵の具による彩色を行い、仕上げの活動とする。作品の完成に向けて、子どもたちが表したいことやその表し方についてのこだわりを大切にするように、方法を提案したりよさを価値づけたり認めたりする。

3 展開計画(全12時間 本時10/12)

次	主な学習	時	具体的な学習・内容(◇印は、学級全体の学び合いの場面)
1	人の形のバランスを考えて骨組みを作ろう	1 2 3	・針金と麻ひもで人体の骨組みを作る。手や足の長さを意識してバランスよく形を決める。 ◇骨組みの手足を動かして、表したい動きについて意見を交わしながら構想をねる。
2	表したい動きをイメージ文に表そう 骨組みのポーズを決めよう 表したい動きをはっきりさせよう 力がこもるイメージで肉づけをしよう	4 5 6 7	・表したい動きについてイメージ文を書き、感情や動作による人体の形の特徴を明らかにする。 ◇イメージ文と骨組みのポーズを比較したり、友だちと印象を交わしたりしながら、表したい動きについて考えを練り、ポーズを決定する。 ・ねん土の荒づけを経て、肉づけをする。骨組みのポーズを生かす肉づけを追求する。
3	動きを生かすように細部を作ろう 「動きを感じる衣服」 「あのときはどんな表情かな」 「あの手この手、決め手はこの手」	8 9 10 ⑪	・肉づけにより躍動感や力強さなどを表した塑像が、より効果的に演出されるように細部を施す。 ・衣服、表情、頭髮、手の順に試行錯誤しながら細部を作り込む。 ◇塑像全体の形から最も適した手の動きや形について友だちとともに見つけ出し、自分の作品に取り入れる。
4	あざやかに仕上げよう 「色で命を吹き込もう」	12 13	・彩色をおこなう。 ・ニス仕上げを行う。

4 「学び合い」における思考力・判断力・表現力の評価

次	時	学習活動	学習活動における具体的な評価規準	評価資料	評価基準		
					A	B	C
1	3	◇骨組みの手足を動かして表したい動きについて考える。	骨組みから立体的に人物の動きをとらえ、表したい動きについて友だちと意見を交わし、試行錯誤しながら考えたりポーズを決めようとしたりしている。	発言 作品 ふりかえりカード	友だちとモデルをしあい、意見を交わしながら、その動きや形の特徴を十分にとらえて骨組みのポーズを工夫している。	友だちの意見を参考にしながら自分の考えを明らかにし、人物の動きや形の特徴をとらえて骨組みのポーズを考えている。	抽象的なイメージや先入観のみを頼りにして、安易に形を決めて、表そうとしている人物の動きの特徴が骨組みに反映されていない。
2	4	◇イメージ文と骨組みのポーズを比較したり、友だちと印象を交わしたりしながら表したい動きについて考えを練り、ポーズを決定する。	作った骨組みやイメージ文やアイデアスケッチを生かして構想したことをもとに、友だちと表そうとしている動きについて意見を交わし、考えを広げたり深めたりしようとしている。	ワークシート 発言 作品	自分が表そうとしている動きの主題や感情や心情などについて、骨組みに形となって反映されているかどうかを丁寧に検討したり、よりよくなるように考えを練り直したりしている。	自分が表そうとしている動きの主題などについて、骨組みに形となって反映されているかどうかを検討したり、確認したりしている。	自分が表そうとしている動きの主題と、骨組みの形に関連性がなく、表したいことの確認ができていない。
3	⑪	◇塑像全体の形から最も適した手の動きや形について友だちと共に見つけ出し、自分の作品に取り入れる。	表された人物の形やそれによる動きのイメージをもとに、作りたい手の形について、友だちと意見を交わしながら、自分の考えを明らかにしたり、よりよい表し方を見つけて出そうとしたりしている。	発言 作品 ふりかえりカード	自分が表そうとしている動きの主題や感情や心情などについて、塑像全体の形と手の形を関連づけながら、よりよくなるように工夫して手の形を決めようとしている。	自分が表そうとしている動きの主題などについて確認し、塑像全体の形に合うように工夫して手の形を決めようとしている。	自分が表そうとしている動きの主題や塑像全体の形と手の形に関連性がなく、表現へのこだわりを持って考えることができない

5 本時の学習

(1) ねらい

作品やサンプル、ワークシートを生かして、表したい手の動きや形について考え合い、よりよい方法や制作についての課題を見つけ、より効果的な表し方を自分なりに考えることができる。

(2) 展 開

学習場面と子どもの取り組み	教師の支援と願い・評価(◎は学び合いのためのはたらきかけ)
1. ○○さんのふりかえりを聞いて、こだわりたい手の形や表したいことについて確認する。 2. めあてを確認する。	<ul style="list-style-type: none"> 前時につかんだ表現しようとしていることについて、ふりかえりやワークシートを用いて確認する。
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;"> からだ全体の動きの形が生きる手の動き・形を考えよう。 </div>	
<ul style="list-style-type: none"> 合い言葉「あの手この手、動きの決め手はこの手だ！」 3. 塑像の作例と手の立体モデルをみんなで見て、動きや形の面白さや効果のよさを探り出す。 その動きにはAの方があっていると思う。でも、なんだか少しイメージと合わない気がする。 手の形がねじれているのが力強く見えるよ。どこでそう思ったかというところ…。だから、右手の形はAの方があっていると思います。 Aの方法に少し工夫をしたらいいと思います。例えば…。 3. 見つけた工夫を生かして手を作る。 バトンを渡そうとしている手は思いっきり前に伸びようとしているよ。 ぎゅっと握った手の方が、全身に力が入っているように見えるよ。 手首が反っているようにするにはどうやったらいいのかな。 どうやったらこんな感じにできるのか、やり方を教えてほしいな。 4. 本時をふりかえる。 友だちにほめてもらったのでうれしかった。アドバイスもらったので、自分の作品に合う方法が見つかった。 自分と友だちの考えでどちらがいいか迷った。 自分では気がつかないことを友だちは気づいててすごかった。 	<ul style="list-style-type: none"> 作品から感じたことを言葉で伝え合うことができるように、モデルから受ける印象やイメージについて、形を手がかりに拾い上げる。 ◎自分なりのとらえ方に沿った具体的な説明や、根拠や理由を伴う意見のよさを認める。 部分的にあるいは全体的に作品をとらえ、イメージを喚起する形の特徴に気づくようにする。 ◎理由や根拠を問い返しながら、意図を明らかにするように促す。 進度差に応じながら、表したいことの意図に沿うように技能的な支援を行う。 <div style="border: 1px solid black; padding: 10px; margin: 10px 0;"> <p style="text-align: center;">評価の観点（発想や構想の能力）</p> <p>手の動きやその形について、作品の特徴と関連づけながら、自分の作品にあった表し方を見つけ出そうとしている。</p> <p style="text-align: center;">【評価方法 観察・発表】</p> <p>支援 表したいことや考えを尋ね、一緒に形に表したり友だちの意見を聞き出したりする。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ワークシートを活用し、構想を確認したり、表そうとしていることを図にかいたりして、意識化を図る。 事前の記録と比較しながら、表現の広がりや深まりを意識できるようにする。 ◎より効果的な手の動きの形やその表し方を獲得するなど、コミュニケーションをしたことが、表したいことにつながる上で有効であったかを問い、そのよさをワークシートに書くように伝える。 友だちの考えとともに自分が積み上げてきた考えを大切にできるようにする。